

「諏訪地方の語り 伝承」第6集発行

八ヶ岳総合博物館の市民研究員グループ



発行した「諏訪地方の語り伝承」の第6集を手にする「語り伝承グループ」のメンバーたち

茅野市八ヶ岳総合博物館を拠点に活動する市民研究員のうちの「語り伝承グループ」は、諏訪地方の一般の人たちからその人の歴史や暮らしなどを聞き取り、会話形式で一冊にまとめている「諏訪地方の語り伝承」シリーズの第6集を発行した。50～90代の8組12人の話を収録し、戦争のつらい思い出や、これまで取り組んできた営みなどを伝えている。

身近な人たちの貴重な話を記録し、今や次世代に語りを受け継いでいくと、2020年に第1集を発刊。以降、

年1冊のペースで作成している。語り手の自宅などでグループのメンバーがインタビュ

ーし、録音して文章に起こし

人生体験聞き取り冊子に

ている。グループの主観が入らないように、語りの内容をほぼ忠実に掲載。語り手が話している姿などの写真も載せている。

第6集では、終戦で満州から日本に引き揚げたときの悲惨な経験や、戦時中の少年時代などを振り返ってもらっている。鉱泉宿を築き上げた苦労話や、80歳まで現役だったバスガイド時代のエピソード、家族が協力しているおんべ作りなども語ってもらった。グループの飯田美智子代表は「普通の方々の日常生活をお聞きしている。その時代の口承文学として残していきたい」と話している。

B5判。モノクロ151頁。400部印刷した。1部800円で同館で販売している。問い合わせは同館（電話0266・73・0300）へ。
（手塚洋一）